平成 21 年度　第２回新ひょうご子ども未来プラン策定協議会での主な発言内容

日時：平成 21 年 12 月 24 日(月) 10:00～12:00
場所：兵庫県公館　第１会議室

１　子どもを産み育てる

・　周囲とうまくコミュニケーションがとれない子育て中の親に対し、交流のきっかけとなる場づくりが必要である。

・　子育て支援拠点は、地域ごとに特色を持って運営されているが、さらに大学や企業と連携して実施することもできると思う。

・　まちの子育てひろばと保育所など横のつながりが弱いので、地域の中で横の情報のつながりを持てるしくみも検討してほしい。

・　主任児童委員は、子育て支援にかかる地域のまとめ役として、子育て拠点の開設や子育て支援活動に係る様々な団体との連絡調整を担っている。

・　子育ての悩み相談事業は、プランの施策体系の中でいろいろ分散していて分かりにくいのでまとめたらどうか。

・　子育て支援にかかる行事は、リピーターの人しか来ず、本当に来て欲しい人は来ないことが多い。

・　ライフステージに応じた様々な支援を１つの場所に集めた、関係性の切れない子育て支援があってもよい。

・　地域の子育て支援行事に、この頃親があまり参加しない背景として、いつも「食育」「子育て」について言われ辟易しているという話を聞いたりする。

２　子どもの成長を支える

・　学童保育のニーズは増え続けており重点的に取り組んでいるが、財政的な問題もあり、県の支援がほしい。

・　都市部の待機児童だけでなく、過疎地では子どもが少なく経営が困難という問題があり、その結果、地域で子どもを預かるところがなくなると、さらに都市部に人間が流出してしまう。

・　３人目を生むためのネックは、習い事等にお金をかけていい子に育てなければいけないと思い込むことだと思う。また、保育所は月 5～6 万円かかるので、正社員でなければそれだけの収入を得るのは無理である。

・　同じ市内の保育所であっても、交通等の関係で、親の預けたい園と預けたくない園の両方が存在し、定員充足のバランスがとれていない状況にある。

３　豊かな人間性を育む

・　子どもの体験活動の場は、身近なところにコンパクトで多くの機会をつくるべき。

・　子育て支援は、子どもの居場所づくりに加え、どんな子どもが育つのかという「子どもの育ち」の質も大切である。

・　子どもの健全な育成には、親の働いている姿を見せて感謝の気持ちを持たせることも必要である。

・　自然が豊かな地域ではあまり自然の中で遊んでなく、そうでない地域ほど自然遊びのプログラムが整ってい

るという状況が生じている。

4　若者の自立を支える

・　出会いサポートにパソコンで登録しようとした人が、有害サイトとして扱われたという話を聞いたりしているので、直接、住民と接触する事業については、実施の際に周知について工夫してほしい。

5　子育てと仕事の両立を支える

・　安心して子育てをするためには、「仕事と子育てのバランス」が大切である。

・　働き方の多様化として、在宅ワークや安定した身分で正社員として働く短時間正社員という方法がある。

6　“良きおせっかい社会”による家庭応援

・　高学歴であるが故に自分に自信があって人に頼るところが少なく、協調性に欠ける人が多いと思う。その結果、自分の殻に閉じこもり「うつ」になったり、婚期を逃したりすることも多い。

・　ひろば活動として、子どもたちに妊婦のお腹をさわらせてあげたら、「弟や妹がほしい」という声が多くあがったので、こういう機会づくりが有効であると思う。

・　社会的養護のシステムに関しては、児童虐待等の趨勢についても記載してほしい。

・　兵庫県が子どもの人権に関して一番進んだ県であってほしい。

・　地域の子育て支援活動はかなり精一杯のところまできており、職場で子どもを預かるということも検討してほしい。

・　高齢者の子育てへの参加について、昔の子育てと異なっている部分もあり難しい場合もあるので、自分のペースで行えばよい。

・　地域が元気にならないと子育て支援もうまくできないが、元気になるために、地域の人たちが自然の素晴らしさや歴史など、魅力的に伝えられるものを持つ必要がある。

7　全体的な意見

・　リレートークは、当事者である子どもたち自身の意見も参考にすべき。（大人が子どもたちの声を聞くということが大事である。）